

福山市廃棄物減量等推進審議会議事録（抜粋）

2008年（平成20年）8月19日  
13時00分～14時30分  
福山市役所議会棟3階 第5委員会室

出席者：委員 井上委員，三吉委員，羽原委員，占部委員，客本委員，藤本委員，  
福永委員，古川委員，宇根委員，福井委員，鶴崎委員，藤井委員，  
開原委員  
事務局 経済環境局長，環境部長，環境総務課長，環境保全課長，廃棄物対策課長，  
環境啓発課長，福山クリーンセンター所長，南部環境センター所長

事務局提案等の承認について

提案事項等	承認事項
会長・副会長の選任について	福山市廃棄物の処理及び再生利用等に関する条例施行規則に基づき、会長及び副会長を選任した。会長の選任については、委員からの提案により、事務局案として福井委員（前会長）を会長として提案し、承認された。また、副会長の選任については、委員から福井会長の推薦による選任との意見があり、藤井委員（前副会長）を推薦し、承認された。
審議会の議事録等の公開について	審議会での審議状況を積極的に公開し、開かれた市政の実現を目指すため、審議会の委員の発言の主旨を踏まえた議事録（抜粋）を福山市ホームページ等で公開する。また、審議会の傍聴についても、報道機関への情報提供に加え、福山市ホームページ等での審議会の開催の周知等により、市民が審議会に関わりやすい機会を設けることが承認された。

議題（1）2007年度（平成19年度）ごみ排出量等について

発言者	質 疑	応 答
羽原委員	ごみの排出量の推移について、1998年から2007年のごみ量に関して、合併による人口との関係はどうなっているか。	福山市は2003年2月に内海町と新市町、2005年2月に沼隈町、2006年3月に神辺町と合併している。ごみ排出量及び1人1日当たりのごみ排出量のグラフに急に変動があるところは、合併が要因でごみ量が増えている。合併を考えても1人あたりのごみ量も減少しているので、合併しても横ばい、あるいは下がっている状況である。

<p>藤井 副会長</p>	<p>リサイクル率の定義があるが、この定義にあてはまる数値を教えてください。例えばごみ処理量は表の中のどの数値なのか、集団回収量はどこに出ているのか。</p>	<p>ごみ資源化量は、資源ごみ、プラスチックごみ等の 12,229t と RDF の固形燃料にした状態の 50,988t、集団回収量の 11,287t を合わせた 74,504t である。ごみ処理量は 167,499t で、これによりリサイクル率は 41.7%となる。ごみ固形燃料工場の搬入量は生ごみ等の状態で 88,334t だが、これを乾燥し、ごみ固形燃料にした量が上記の 50,988t になる。</p>
<p>藤井 副会長</p>	<p>RDF 工場が全国のあちこちに作られ、採算が合わないところがたくさんあると聞いたが、本市の場合、RDF の効果あるいは費用はどのような状態なのか。</p>	<p>RDF は、一般の焼却場に比べて単価が高い部分はあるが、ダイオキシン対策、広域的なごみ処理、エネルギーの効率化といった長所もあるので、一概に処理費だけの判断はできないと考える。</p>
<p>三吉委員</p>	<p>全国や県とのリサイクル率の比較を見ると、県内と比べても倍と、福山は率が高いが、どういう努力があったのか。</p>	<p>RDF が大きなウェイトをしめる。他には市民団体による集団回収の積極的な推進、紙ごみのスーパー店頭での回収、公共施設への紙ごみの持込により資源化している。またリサイクル工場での金属等の回収を実施しているが、そういった効果が出ていると考えられる。</p>
<p>福井会長</p>	<p>広島県のリサイクル率も 2003 年から 2004 年にかけて上がっているが、福山の RDF の影響か。</p>	<p>2004 年からの RDF の稼動が広島県全体を押し上げている。環境省が毎年公表する「一般廃棄物の排出及び処理状況等について」では、人口 10 万から 50 万人未満の都市で 4 位の倉敷市に次ぐリサイクル率だが、この統計では従来からごみ固形燃料を除くため、まだカウントされていない。</p>
	<p>鎌倉(人口 10 万から 50 万人未満の都市におけるリサイクル率 50%、全国第 1 位)や倉敷(同 46.5%、全国第 4 位)は RDF を除いてそれぐらいの数値を出しているのか。</p>	<p>福山市では、実際の燃やせるごみの搬入量は約 88 千 t だが、乾燥され約 5 万 t の RDF が製造される。倉敷市はガス化溶解で、全量が処理されるので、全量がリサイクル率の資源化量となるが、福山市の場合は、乾燥後の約 5 万 t が資源化量の一部となり、搬入量全てがリサイクル率に反映されない。</p>

井上委員	燃やせるごみに汚れた容器包装プラスチックごみがまだ入っている。きれいにすれば資源化されるのではないかと思うが、出前講座によりもう少し住民の理解を深めてほしい。	住民学習や出前講座など、あらゆる機会を通じ、各戸に配布しているガイドブック等を使って分別の徹底を図っている。まだ今のところ完全ではないが、今後も啓発していきたい。
占部委員	昨年、自分たちから望んでごみ分別の出前講座に来ていただき、全世帯に参加していただいて実施した。出前講座を開いたのは、ごみ当番がごみを残されることでどうしたらよいか分からず、私にも頻繁に電話があり、その結果、自分たちでどうしたらよいか考え、これは絶対皆さんに話を聞いてもらわなければいけない、チラシだけでは分からないということからだった。結果として随分分別がよくなった。その時に市の方から、汚れたものは全部燃やせるごみに入れるよう話があったが、どちらがよいのか。	現在、市民に対する啓発として、皆さんが適正に分別しないと、容器包装プラスチックごみとしての処理ができず、燃やせるごみが増えていくことを伝えている。一層市民に分別の徹底を図っていきたくと考えている。
井上委員	汚れた容器包装プラスチックごみを洗うと水が汚れる。いろんな理論があるが、洗って少しでも資源化できた方がよい。	分別ガイドブックにも記載しているが、PET、プラマークがなければ容器包装プラスチックにはならないため、特定事業者の拠出金で処理されないことになる。分別基準を満たさず引取拒否になると、市の負担も大きくなるため、汚れた容器包装プラスチックごみは入れてもらいたくないのが本音である。今後市民啓発を行い、マークの付いているものは極力きれいにして出してもらうことが基本であると考え。また 2008 年度から、想定される処理費用と実際の処理費用の差額が拠出される制度があり、分別基準が満たされていれば、その差額の半分を市町村に拠出される制度が実施される。そういった点でも市民啓発が大切である。
福井会長	プラマークが付いているものにたくさんラベルが貼ってあり、そのまま出してはいけないと思うが、ラベルの貼付についてお店に呼びかけはできないのか。	プラスチック以外のものが少々入っているのは構わない。取っていただけるとありがたいが、仮に付いていても分別については大丈夫である。

三吉委員	出前講座をまだやっていない地域もたくさんあると思うが、特に学区や自治会単位でやると何百という人も参加できると思う。今のところ、どの程度実施しているのか。	出前講座は地域によっては要望がないところもあるが、全体的には全くないところはなく、多かれ少なかれ依頼はある。地域別に町内会連合会等をお願いもしている。環境啓発課ができて5ヶ月なので、今後、全地域をお願いしたい。
占部委員	市はもっと厳しく、いけないごみは回収しないでほしいと思う。そうすればみんながもっと真剣に考えると思う。	昨年度から貼紙を一新し、直営、委託とも収集できないごみに貼っている。市民への出前講座での啓発だけでは足りないので、昨年度から特に容器包装プラスチックごみと車両火災に重点を置き残している。更に徹底をしていきたいので、ご協力をお願いします。

議題(2) 2008年度(平成20年度)の主要施策の概要について

発言者	質 疑	応 答
鶴崎委員	ふくやま環境賞は具体的にどのようなかたちで表彰するのか。	温暖化防止に寄与する優良な市民、事業者、団体を表彰したいが、応募形態についても事業所の規模が違うので、大きな企業、中小の企業を従業員の数等で分類しながら表彰したい。審査基準についても、いかにして貢献しているかを勘案しながら審査したいと思っている。今年度中には募集して表彰したい。
福井会長	優良ごみステーションにはどのような基準を考えているのか。	ごみステーションにはいろいろな基準があり、選定要件としては、維持管理が立派にされている、整理整頓がよくできているといった管理ができていることと、その中に分別の状況等にも基準を加えたいと考えている。不法投棄対策でも鍵がかかる等の管理方法の基準にしていきたい。それと地域でいかに主体的にステーションの管理等に取り組んでいるかも基準にしていきたい。今年は約7,100のステーションから25ヶ所を表彰した。次回もこれに準じる件数を表彰したい。

藤井 副会長	ふくやま環境賞は、もっと広い意味での環境は対象になるのか。町内会の川を昔のようにホタルが飛ぶように、石を並べて芦を植える活動をしている。多少魚も増え、ホタルの幼虫を放したりして、自分の生まれ育った環境を多少でも取り戻せたらと思っている。そういうのも賞の対象になるのか。	ふくやま環境賞は今年度新規事業だが、現在要綱を作成中である。北九州市には「北九州環境賞」があるが、福山から打って出る環境賞にしていきたい。詳細はこれから検討する。福山市協働のまちづくり事業もあり、それとの兼ね合いもあるので、バッティングしないような工夫をしていきたい。
占部委員	予算的なこともあると思うが、「家庭ごみの分け方・出し方」の小さいものはないのか。大きいものは持ち歩けない。以前、犬の糞の看板ももらえなかった。啓発にたくさんお金をかけるのはよいが、そういうものにもっとお金をかけてほしい。	「家庭ごみの分け方・出し方」は大きいサイズを提供しているが、インターネットをされていれば、A4 サイズでの印刷も可能である。ただ、いろいろなものを作ると経費もかかる。また高齢化の時代を迎え、できるだけ大きな文字にしなければ、若い人にはよいが、お年寄りには見にくい。看板等は、廃棄物対策課や各環境センターでも用意している。
客本委員	<p>「家庭ごみの分け方・出し方」は日本語版以外にも5つぐらいの言葉であると思うが、外国籍の方にこういった啓発をしていくか具体はあるのか。地域の中でごみの問題でトラブルになることがあるが、具体があれば教えてほしい。</p> <p>その場所に行けばあるというのは分かるが、ここにあるという情報が、その方に伝わらなければもったいない。例えば、いろんな民主団体や外国籍の方たちが自分たちで作られているグループへの働きかけは考えているか。</p>	<p>現在は中国語やポルトガル語等を用意しているが、これを各家庭に配布することは困難である。そのため各環境センターや支所、廃棄物対策課等で配布の対応をしている。個別の対応というのは難しい。</p> <p>ごみ分別だけではなく、国際化の流れの中で、現在市は全庁的に（仮称）福山市国際化推進プランを策定中である。その中にごみのことも入っている。全体的な行政の中で、環境だけではなく全体として考えているので、今年度中に策定する。</p>
占部委員	地球が温暖化や大雨といった環境問題で悲鳴をあげていると思う。もっと個人にそういう意識を植え付ける方法を考えてもらえないか。上からではなく、みんなが自分からやらなくてはいけないという気持ちになる啓発方法を考えてほしい。	「ふくやまエコファミリー認定制度」もそういう観点から、身近で家庭で取り組めるものである。啓発活動がこれから特に重要になるので、ふくやま環境賞も含め、事業主の方でも身近にできることからまず行動を起こしていただけるような啓発活動をしていきたい。

福井会長	ハイブリッド車の購入だが、燃料費を減らす目的なのか、広告効果を高めようとしているのか、どちらに重点が置かれているのか。	広告効果である。今回は各センターへ4台購入する。経費的には約200万円割高である。理論上では4年で元が取れるが、これはあくまでも市が環境に対する率先行動ということで啓発が目的である。1年間検証してみて、よければまた増やしていく考えである。
	外装も変える予定があるのか。	標語等も内部で検討中である。
古川委員	せっかく収集車が日常的に走っているのだから、走る広告塔みたいな感じで、いかに啓発するかが大事なポイントとなると思う。目に触れるような形で啓発を考えていけたらと思う。	一昨年から環境保全ポスターを収集車に貼り、市内に6台程度走らせている。10t収集車についても看板等を設置しているが、ポスターだけでなくいろんな啓発を、最近よくいわれる「見える化」により行っていきたい。